Gregory H. Rickel 尊師

固有式文22、A年

出エジプト記20章1～4節、7～9節、12～20節、詩編19篇、フィリピの信徒への手紙3章4b～14節、マタイによる福音書 21章33～46節

2020年10月4日

キリスト教会、アナコルテス

さて、私は、この日曜日に、この教区のために、この日を選んだ皆さんのために、説教をすることにしました。都合のいい日曜日ですし、とにかく、アナコルテスのキリスト教会のために説教をしなければならなかったからです。教会には、今日、説教ができることを心から感謝しています。管理人についてもお話ししたいと思っていますし、それをするのに良い時期でもあるからです。そして、最後に、この教区周辺の素晴らしい説教者の方々に、その方たち次第ですが、1日お休みを差し上げたいと思ったのです。後になってやっと、今日、多くの皆さんが聖フランシスコと、おそらくペットの祝福を祝っていることに気づきました。そこで、そのことにちょっと敬意を表したいと思います。フランシスコは、おそらく誰よりも文字通り上手に生きていたという私の推測に間違いなく賛成すると思います。そして、彼にはそれについて話すことがたくさんあったのです。うまくいけば、今、それを祝う皆さんはその一端を見つけるでしょう。確かに、トルーマン大統領が述べたワシントンDCについての古い言葉「ワシントンで友達が欲しいなら、犬を飼うことだ」は、人生の多くの点で実に正しく、皆さんは「この人生で真の無条件の友人を求めるなら、ペットを飼う」のです。そこで、多くの皆さんとともに、ペット、動物、創造物に今日も同じように敬意を表しております。

そして、フランシスコをさらに称えるために、彼についてお話をします。皆さんのうちの何人かは私が以前にそれを話したのを聞いたことがあるでしょう。私はアッシジに数回行ったことがあります。そこに行くのが大好きだったのです。アッシジの下の谷に下ると、彼に捧げられた巨大なバシリカの、ちょうど真ん中に、小さくて可愛い礼拝堂、ポルツィウンコラがあります。フランシスコが最も愛したと言われている小さな礼拝堂で、壁から数フィートの所で彼は亡くなりました。そこに初めて行く前に本を読みました。本の中で、大学の歴史の教授は学生たちを連れて行き、彼らがこの小さい礼拝堂を取り巻いているそのバシリカに立っていると、教授はキリスト教の世界（クリステンドム）とキリスト教の信仰（クリスチャニティ）の違いを説明し始めました。本質的に私たち人間が教会に対して行う傾向があるキリスト教の世界と、神とイエスによって動かされた実際の行動であるキリスト教の信仰の間を行ったり来たりする話の終わりに、教授は、その巨大なアーチ型天井を指して、それがキリスト教の世界であると言ってから、小さな礼拝堂であるポルツィウンコラに手を置いて、これがキリスト教の信仰だと言いました。肌で感じ、心で感じる。G.K. チェスタトンは、これを次のように言って要約しています。 キリスト教がそれほど悪いわけではなく、まだ誰もそれを試したことがないというだけです。一考する価値があります。

数年前、この国には大統領がいました。現大統領のことを言っているのではなく、別の大統領のことを言っています。彼は、公然とこの国、私たちの社会は、「所有権社会」であると宣言しました。初めてそれを聞いたときにそれがちょっと衝撃的だったのを覚えています。なぜだろうと思いながらそこに座っていたのです。なぜそれがそんなに私を揺さぶったのでしょうか？所有権社会というものが。

彼の言ったことには実に正しい点がたくさんあります。私たちは所有権社会に生きており、私たちの社会での人間としての価値の多くは、私たちが持っているもの、私たちが所有しているものを中心に展開し、それで判断されます。私は、それがいいことだとは言っておりません。実際、この説教は、皆さんにそれを否定しようとしています。それ以上、所有権社会が悪いか良いかを説得しようとはしませんが、その代わりに、単にそれが私たちの姿ではないことを言おうと思います。それは私たちの生きざまではありません。つまり、それはキリスト教ではないのです。

確かにイエスは、キリスト教そのものではないにしても、所有権社会、所有権王国、所有権運動ではありません。実際、それどころか、キリスト教は正反対です。これが、イエスがお金、人生での所有、何かを所有するという考えを疑わしいものとし、私たちにとって本当に大問題、何かを所有していること以上に神との関係を妨げるものはないという大問題として語った理由です。彼は、このことについて福音書で60回も直接言及しており、これは愛そのものを除いて、他の何よりも彼が直接話す1つの焦点とトピックであると考えられています。彼が十分分かっていたことは、それらの瞬間の1つで実際彼が言ったことです。私は、皆さんが自分の富、所有しているもの、そして神に完全に専心するのは不可能だと思っています。皆さんは、神、そして自分の所有物に完全に仕えることはできません。どちらかなのです。

何度も何度も、多くの異なった方法で、彼はこの主張をします。そして、今日、この福音書で、再びこの主張をしています。今度は、非常に直接的です。地主は、このたとえ話ではほぼ間違いなく神ですが、自分の土地を賃借人に貸し出します。賃借人は、自分がいる土地が自分のものではなく、自分が所有していないことを忘れているか、気にしていないかのようです。代わりに、誰か別の人がそれを所有しており、賃借人は土地から利益を得て、土地を世話し、その土地で生計を立てるためにそこにいますが、そうすることで、彼はそれを所有していないことを常に認識し、その代わりにその管理人と呼ばれます。この賃借人は、そのすべてを忘れたばかりでなく、土地を取得して、それを自分のものにし、その所有者になることができるという信念に、感情的に考えもなく飛び付くことさえあるのです。

これが今日のポイントです。神の王国は所有社会ではありません。まったく違います。イエスがこのたとえ話や、他の多くのたとえ話や物語の中で指摘している王国は、それと正反対のものなのです。あなたがイエスに従うことを決めた時に、イエスは弟子たちに命じたのとまったく同じことをあなたに命じます。すべてを置いて、すべてを手放して、そして私に従えと。イエスは来て、何世紀にもわたってユダヤ教の律法として守られてきたことを再確認したのです。十分の一、自分の富の10％、あらゆる種類のすべての利益と収穫の10％を、信者の共同体に還元すること、これが要求されていました。そして彼はこれを確認したのです。その同じユダヤ教の律法と慣習に伴っていたのが、本当の真実な施しとは、その10％を与えた後からのみ始まるという考えでした。言い換えれば、十分の一献金、10％は当然のこととして期待されていたのです。....期待されていたのです。今でも一部のシナゴーグでは信者のシナゴーグへの十分の一献金額を設定するために、納税申告書の提出を求めているところもあります。真実な施しは、その後からのみ始まるのです。ですからお分かりのように、十分の一だけについて話すとすれば、かなり軽くて済みます。そして、納税申告書の提出を求めている教会については私は聞いたことがありません。ただ、そういうことについて話すのは気が進まないという問題については、また別の日に説教することになるでしょう。

さて、それからイエスが来られます。そして、このたとえ話では、彼は息子であり、家の主人である神から遣わされています。神は、実の息子を送った場合、もっと敬われ、農夫たちは耳を傾けるだろうと信じておられたのです。話はどうなりましたか。イエスが実際に来られたとき、何が起こったかを私たちは知っています。神は私たちにもイエスに耳を傾けるように求めておられます。そして、イエスはこれらすべてについて何と言っていますか。私がたった今お話ししたことは、イエスの話と同じであり、イエスは基本的に、何度も何度も直接的に、そしてたとえ話で、10％では十分ではないと言っているのです。イエスが知っていたのはこのことであり、このことが十分にあなたの魂に影響を与える（affect）ためには、感染する（infect）ほどに影響を与えるためには、あなたはすべてのものを与えなければなりません。すべてをです。富を最優先事項として執着しながら、同時に神と、神に従うことを優先事項とすることはできません。まず、すべてを手放すことです。この世代でそれをどのように行うのでしょうか？もちろん、単にすべての荷物をまとめて隅に置き、家や車などの鍵を投げ捨ててただ立ち去るというわけにはいきません。まあ、できなくはありませんが実際にそうすればすぐに途方に暮れて、間違いなくたくさんの助けを必要とすることになるでしょう。文字通りそうすることが求められているのではないのです。

つまり、世界の経済や世界の習わし、私たちが住んでいる所有社会は非常に明白な現実です。それは確かに存在しています。簡単に言えば、私たちクリスチャンにとって、それは私たちが住んでいる世界ですが、もはや私たちの世界ではありません。イエスが求めている変化がどれほどとてつもないものかということです。 100％です。それは、クリスチャンがこの召命と生き方を受け入れるときに誓うものです。

ですから、私たちは譲渡証書に署名したり、すべてを捨てて去ることはありませんが、このことを頭の中と、心の中と、人生の中に叩き込んで、すべてが自分の所有でないということを実践する必要があります。私たちはもはや所有社会を信じていません。代わりに、私たちは管理社会に住んでおり、管理生活を送っています。管理とは、自分のものではないことを知りつつ、預かっているすべてのものを大切に世話することを意味します。自分は何も所有しておらず、それをいつか他の管理人に渡します。本質的に、クリスチャンになることで、あなたは自分がこのたとえ話の農夫であることを認めるのです。あなたはその土地を耕し、世話をし、自分が預かったときよりも良い状態にしてそれを返しますが、決してそれを自分の所有とすることはありません。

私の管理人ワークショップでよく言うことですが、「霊柩車には手荷物棚はありません」。それは、「財産はあの世には持っていけない」ということわざと一致します。それは真実であり、後にも先にも、この世での持ち物を持ってこの世を去った人は誰もいません。私たちはキリストにより、永遠の人生である管理の人生を早くから生きるように求められています。言い換えれば、私たちはここで、そして今、永遠のための実践をしているのです。それがクリスチャンであることの意味です。

古い田舎での説教にこういうのがあります。私が今日説教しようとしていたものと同様の説教の後、農夫が説教者を自分の所有する1000エーカーの農場に招待し、高い見晴らしの良い場所に連れて行って言いました。先生、見てください。ここから見える限りのこの土地は、私が覚えている限りずっと私の家庭の下にありました。それでお尋ねしますが、本当に私が所有者でないと言い切れますか？

説教者は彼を見て言いました、同じことを私に100年後、あるいは1000年後、それとも永遠の後に尋ねてください。あなたがもうここにいなければ、どんな一枚の紙も、歴史も、人間の意志も、あなたを所有者とすることは決してないでしょう。

私たちクリスチャン、あるいは私たちの多くは、今でも十分の一献金を基本線として使用しています。私もその一人です。現在、妻と私は毎年収入の約16％を献金しています。常に10％は必ず教会に直接献金するようにしてきましたが、今ではそれが最大で約12％になり、残りの4％は私たちが信念を持っている他の目的のために捧げています。常にもっと多くを捧げられるように努めています。なぜならば残りの84 ％も私たちのものではなく、私たちはそれの管理人であるからです。

率直に言って、私はそういう生き方により自分がとても命を与えられ、とても解放され、とても信心が深まっていることに気づきました。皆さんもそこに喜びと解放を見つけてくださることを願っています。

イエス・キリストに従う私の同胞の皆様、私たちはもはや所有者ではなく、管理人なのです。 皆様がその真理による自由と賜物を十分に知ることができますように。

愛する皆様、私はこれらの言葉を父と子と聖霊の名においてお話ししました。 アーメン。